

## 第10回 あかちゃん広場 ご報告

12月6日（火）に第10回「あかちゃん広場」を開催しました。今年度最後となる今回も、和気藹々とした楽しい1時間半を、みなさんとともに過ごせたことに感謝いたします。

10回を通してピアノ伴奏を担当した学生が、振り返りの際「参加者全員でつくる輪の形が、今までで一番綺麗だった。人と人の距離に親密度が表れることに気づき、ここで素敵な関係が育まれたことに感動した」と話していました。

この「広場」における活動が、地域社会への貢献、学生および教職員の実感を伴う深い学び合いの場として、豊かに用いられたことに、大きな喜びを感じています。



クリスマスツリーの制作コーナーでは…



可愛らしい指で、シールのつつつとべたべた、画用紙のサラサラ、リボンのスルスルを感じます。



子どもたち一人ひとりに、この広場でのお気に入りが見えたようです。わたしたちも一人ひとりの姿を想像しながら、絵本やおもちゃの準備をしています。



今回は、冬至に向かって夜が長くなっていくこの時期に、クリスマスをもっと待ち望むお手伝いができるよう、クリスマスツリーの「制作コーナー」を準備しました。子どもたちがシールで飾り付けをした緑の部分の下に茶色い幹と植木鉢が付き、その植木鉢に大きなクリスマスツリーの前で撮影した写真を貼って完成です。

この「制作コーナー」を通して「シールを貼った場所や数」だけでなく「どんなふうに貼るのか」、さらには「貼らない」ということも、子どもの大切な表現であり、そのすべてを大事に受け止めたいという思いをみなさんと共有できたのではないのでしょうか。

「しない」が子どもの尊い自己表現だということを忘れ、「する」ことや「した」ことを出発点に子どもを理解しようとしてしまいがちなわたしたちです。制作をしなかった子どもの気持ち、シールを貼らなかった場所を心に留めて、来年度もともに子どもの声を聴き、その想いに寄り添いながら、温かい空間を創っていただけると幸いです。

…どうかこれからもお互いの成長を支え合い、喜び合うときを重ねていけますように。

〔名古屋柳城短期大学講師：勝間田明子〕

